

2020年1月20日

CDPによる気候変動対応調査において2年連続で最高評価を獲得

住友化学は、このたび、気候変動対応で特に優れた活動を行っている企業として、CDPにより最高評価の「気候変動 A リスト 2019」に選定されました。A リストへの選定は2年連続となります。

CDPは、企業や政府による温室効果ガス排出削減や水資源管理、森林保全を促進している国際NGOで、2000年に設立されました。現在、世界の機関投資家を代表して、主要企業の気候変動対応に関する取り組みの情報を収集し、評価しています。2019年度の評価において、気候変動情報を開示した約8,000社の中から、最高評価のAリストに選定されたのは、世界で179社、そのうち日本企業は38社です。

住友化学は、環境負荷低減への貢献を経営として取り組むマテリアリティ（最重要課題）の一つと位置付けており、昨年11月に、それぞれのマテリアリティに対して主要取り組み指標（KPI）を設定しました。環境負荷低減に関しては、Science Based Targets (SBT) ※¹認定を受けた温室効果ガス排出量や、「スミカ・サステナブル・ソリューション※²」認定製品の売上収益などをKPIとしています。

住友化学グループは、「事業活動を通じて人類社会の発展に貢献する」を経営理念に掲げ、これからもグループを挙げて、経済価値と社会価値を一体的に創出し、持続的な成長とサステナブルな社会の実現を目指してまいります。



※¹ パリ協定を実現するために、企業が気候科学に基づき設定した高水準な温室効果ガス削減目標

※² 温暖化対策、環境負荷低減などに貢献する製品・技術を認定し、その開発や普及を促進する取り組み

<紹介ページ>

<https://www.sumitomo-chem.co.jp/sustainability/sdgs/sss/>

以上